

金大中氏らを殺させるな!

キム デ ジュン

前外相大来は公然と「韓国が弱体化する情勢になることは日本の国益から望ましくない」と発言し全斗煥軍政の人民弾圧の現実を全面的に支持している事を表明し、血のにおいもさめやらぬ七月九日から全斗煥体制を相手に史上最大の対韓輸入促進使節団を派遣し、九億三千万ドルの商談成約をどこの国にも先がけてうち上げたのである。続

第二に、われわれは、この悪虐非道の全斗煥軍事独裁政権を全面的に支え、南朝鮮人民への血の弾圧を加えている張本人が、ほかならぬ日本帝国主義・鈴木体制そのものである事をはっきりと確認し、徹底的に弾劾し打倒していかねばならない。

血まみれの全斗煥を支える 日本政府を断罪する!

起であり、全ての人民の魂をゆさぶり未来をさしめず解放ののろしであった。ところが、あの全斗煥は、血にうえた野犬のような「空挺部隊」を投入し、銃剣で老人から幼児まで突き刺し、切りさき、撃ちころし、なぶり殺すという断じて許せぬ蛮行を加えたのだ。あの血まみれの腕を高くさし上げ、われわれにむかって発せられた光州人民の血のさけびをわれわれは絶対に忘れることはできない。

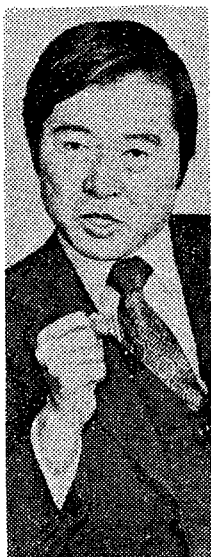
韓国の全斗煥軍部独裁政権によって去る七月十二日、「内乱陰謀罪」「反共法」等々、ありとあらゆる重罪をデッチ上げられ軍法会議に起訴されている金大中(キムデジュン)元大統領候補をはじめ九人に対する、悪虐非道な死刑策動が急速に強められている。全斗煥軍部独裁政権は、残忍極まりないあの無差別大虐殺にもまだあきたらず、少しでも政府に批判をもつ者ときめつけられ見さかいかいもなく「内乱罪・内乱ほう助罪」・・・等々とデッチ上げて無差別逮捕・拷問・抹殺攻撃を今もなお強行している。近く開始されると見られている金大中氏らに対する軍法会議こそ、その最も集約された姿である。われわれは、絶対にこのような理不尽な、残虐行為を黙って見すごすことはできない。

光州民衆の五月蜂起は正義の闘い! 断固支持・連帯!

そもそも、あの五月光州蜂起こそは、全斗煥がきめつける「北の浸透・スパイの陰謀」などというものではなく、誰の目にも明らかである。永きにわたる暗黒の軍政極限にまでつき落とされようとしている民衆の生活苦に對し、やむにやまねずわき起こった人民の心の叫びであった。それは朴以上の残忍さをもって、クーデターのやり方で一挙に軍政戒厳令体制にのり出してきた全斗煥軍部独裁に対する、人民の正義の実力決起であり、全ての人民の魂をゆさぶり未来をさしめず解放ののろしであった。ところが、あの全斗煥は、血にうえた野犬のような「空挺部隊」を投入し、銃剣で老人から幼児まで突き刺し、切りさき、撃ちころし、なぶり殺すという断じて許せぬ蛮行を加えたのだ。あの血まみれの腕を高くさし上げ、われわれにむかって発せられた光州人民の血のさけびをわれわれは絶対に忘れることはできない。

いて鈴木新内閣は発足早々「日韓関係は不変」を表明し、金大中氏の身柄問題に本来全面的責任を負うべきにも拘らず「ら致事件等はすでに政治決着のついたもの」であるから、どうなってもよい、いな、死刑にしてもよいとの態度を表明したのである。そして、より露骨に軍事費大巾増額・自衛隊海外派兵・小選挙区制・靖国法案等々の反動攻撃に着手し、その最大焦点として三里塚二期攻撃・新関西空港建設第四次空港整備(四空整)計画を軸とする全面的な軍事大国化朝鮮アジア侵略の道へと一挙になだれこもうとしているのである。

われわれは、このような日本帝国主義の軍事大国化・侵略への道を断固として断ち切り、なによりも凶暴な全斗煥軍部独裁政権の人民弾圧を弾劾し、生命がけで闘う南朝鮮人民にこたえ、闘っていかねばならない。金大中氏をはじめ全ての政治犯を断じて殺させるな!急速に進む死刑策動をうちくたくため、抗議集会・署名・学習・情宣の活動を大きくまき起こしていこう。



自宅で記者会見する金大中氏(昨年4月)

全眩場で運動をひろげよう

① 金大中氏らの救出ノ緊急署名を全力で達成しよう。

② 職場集会・学習会に映画をノ

(イ)「光州五月蜂起」(ニュースフィルム・カラー・八ミリ二五分)

(ロ)「韓国一九八〇年一血の抗争の記録」(一六ミリ三〇分)

(申し込みは、本部教宣部まで)

日刊 労働券千葉

80.8.7

No. 502

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二五八・九(公衆)二三七二〇七